

 コンソーシアム名

鳥取県観光DXプラットフォーム推進コンソーシアム

 事業実施概要

旅館単位での宿泊需要を予測できるシステムを構築・実証運用し、労働シフト管理や在庫管理等の効率化など業務プロセス改善を行い、旅館業の生産性向上を図る。

 コンソーシアム構成員

中小ユーザ企業


- ◆ 有限会社望湖楼（鳥取）
- ◆ 株式会社依山楼岩崎（鳥取）
- ◆ 株式会社皆生グランドホテル（鳥取）

ITベンダ

- ◆ 株式会社オープントーン（東京）

その他協力者

- ◆ 公益社団法人日本観光振興協会（東京）
- ◆ 株式会社クニエ（東京）
- ◆ 鳥取県（鳥取）_行政機関のため売上はなし

 対象とするITツール

- ◆ 観光予報プラットフォーム：市町村単位の宿泊者数予測
- ◆ 観光DX推進プラットフォーム（仮）：旅館単位の宿泊者数予測

 定量目標値

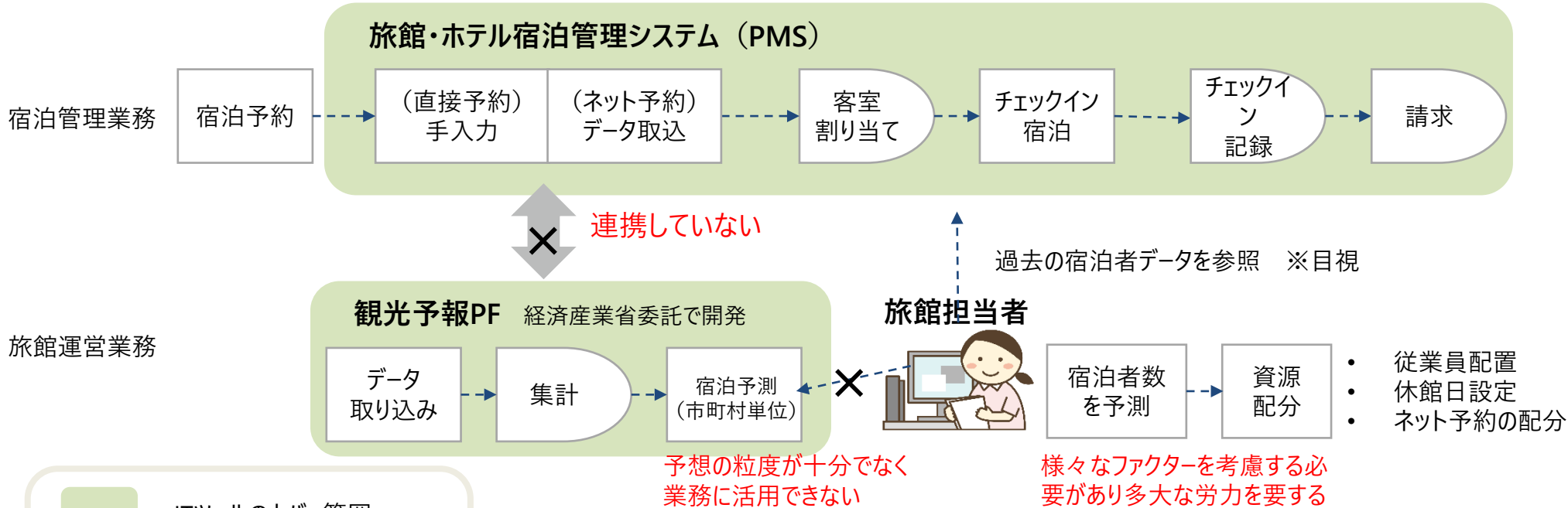
労務シフト管理や在庫管理の1日あたり従事時間の削減

【現状】8時間 【1年後】4時間 【2年後】4時間 【3年後】4時間

1. 現状と課題

各旅館で宿泊管理システムのデータ（予約・実績・顧客情報等）と経験則に基づき宿泊者数を予測し、従業員の配置や部屋の在庫管理を行っているが、過去データとの照合や宿泊予約の動向把握、気象データ、社会的な趨勢など様々な要素を考慮し決定する必要があり、高度で労力を要する業務となっている。

現状（交付申請時点）の業務フロー（Before）



現状

担当者がPMSのデータを参照して宿泊者数を予測、従業員の配置や部屋の在庫管理を行っている

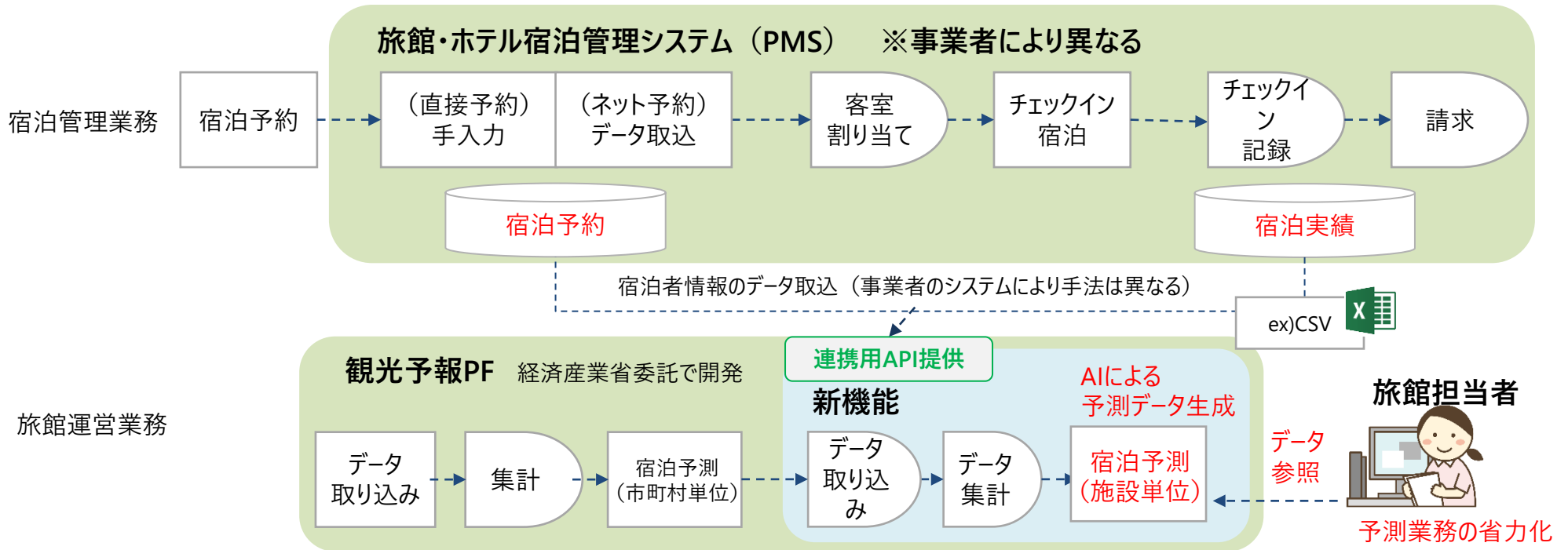
課題

- 予測作業に多大な労力を要する
- 経験則によるものであり、主観的・感覚的な予測となり精度が担保できない。
- 担当者が把握できない外的要因が反映されず、トレンド変化への対応が難しい

2. 解決策と効果

「観光予報プラットフォーム」の宿泊者数予測と旅館の保有する宿泊者情報を連携し、各旅館単位の半年先までの需要予測宿泊者数（部屋グレード別）を予測するシステムを構築する。宿泊者数予測を用い、労務シフト管理、休館日の設定、適正資源管理などの業務プロセスを改善し、生産性を飛躍的に高めていく。

本事業実施後の業務フロー（After）



- ...ITツールのカバー範囲
- ...システム操作
- ...手作業やエクセル管理等のシステム操作以外の業務
- ...業務の流れ
- ...本補助事業で連携予定

解決策

「観光予報プラットフォーム」の宿泊者数予測と旅館の保有する宿泊者情報を連携し、旅館単位の宿泊者予測システムを構築し、各旅館単位の半年先までの宿泊者数予測（部屋グレード別）を生成

効果

- 宿泊者数予測を用いることで予測業務が省力化される
- 宿泊予測を用いて労務シフト管理、休館日の設定、適正資源管理などの業務プロセスを改善することで、生産性が飛躍的に高まる

資源配分

- 従業員配置
- 休館日設定
- ネット予約の配分

3-1. 事業詳細

🎯 取り組みのきっかけ

■ 主観的な宿泊者数予測の客観化

各旅館は宿泊者数の予測を管理システムのデータと担当者の経験則に基づいて行っているため高度で労力を要する業務となっている。リアルタイムのデータと連携した客観的な予測を行う必要があるため本取り組みを開始した。

💡 本事業における課題と対策

■ コロナ前後における環境の変化への対応

COVID-19の影響が出る前のデータに基づいて想定していた業務を実施したが、アフターコロナにおいては環境が変化している可能性が発生。そのため、コロナ禍が落ち着いたタイミングで改めて予測・検証の見直しを実施することを予定している。

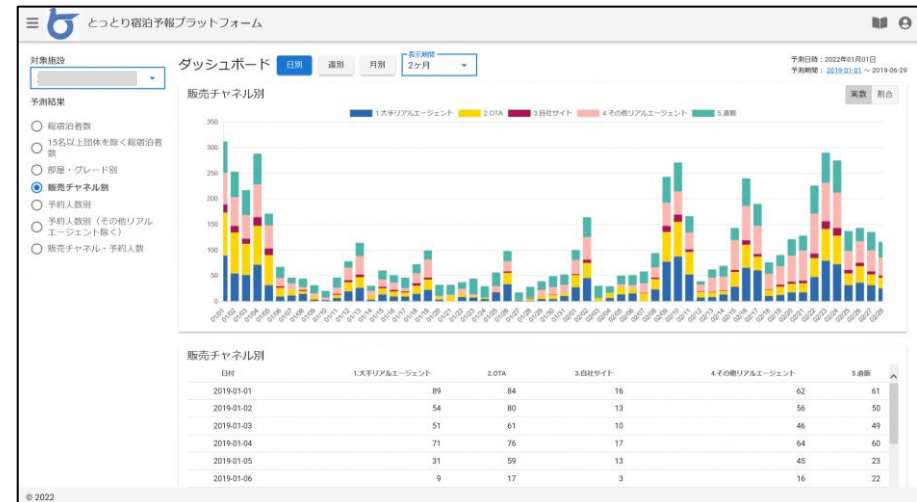
📊 期待される効果

■ 半年先までの宿泊者数予測による業務プロセスの改善
AI等を活用したデータ分析により各旅館単位で半年先までの宿泊者数予測が可能となる。そうすることで各旅館は労務シフト管理、休館日の設定等で業務プロセスを改善できるので、生産性を飛躍的に高めることが可能となる。

【After】
宿泊実績を取り込み、試算した部屋タイプ別の宿泊予測



【After】
販売チャネル別の宿泊予測



3-2. 事業詳細

共創のポイント

■ 月1回の会合で現場の意見をベンダに共有
1か月に1回程度コンソーシアム参加者の会合を開催。使いやすさに関するユーザーとしての意見、休館日設定の要望等の現場としての意見、有識者の意見をベンダに共有し、連携しながら事業に取り組んだ。

現場ユーザーの声

■ シフト管理の最適化による人材不足の解消
宿泊者数予測によって労務シフト管理が最適化できるようになった。そのおかげで休館日の設定(休暇取得)や棟別の従業員の適正配置が可能となり、人材不足が減って働き方改革に繋がった。

今後の展望・普及展開

■ 利便性の向上と各種広報媒体による広報活動
今後はUIとデザイン性の向上、API連携の効率化を行う。新システムに関するリーフレットの作成と配布、セミナーの開催、サイトでの事例紹介などの広報活動で普及啓発を図り、県内外の旅館組合や旅館等への導入を推進する。

【After】 予約人数別の宿泊予測



【After】 6か月先までの全体予測

